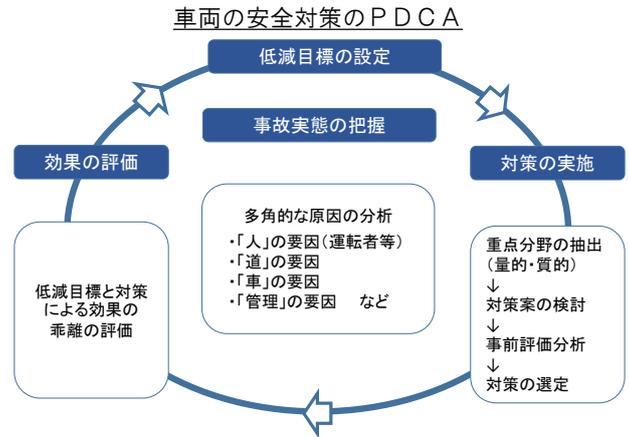


## 自動車の安全対策

安全基準の策定、型式認証、車検、リコール制度等により自動車の安全の確保・向上を図る。

車両安全対策の枠組み【車両の開発、製造から使用時】

先進安全自動車	先進安全技術の開発・普及促進	
安全基準	安全基準の策定 国際基準調和の推進	
型式認証	製造時の適合性確認	
自動車アセスメント	自動車の安全性評価 ユーザーへの情報提供	
点検整備	使用時の安全性能の確保	
検査	使用過程車の基準適合性の確認	
リコール	設計・製造に起因する欠陥車の市場回収	

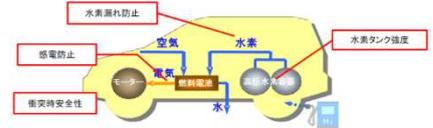


### 次世代自動車に係る安全基準

- ハイブリッド自動車等の車両接近通報装置 (QRTV)



- 水素・燃料電池自動車 (HFCV) の安全対策



## 自動運転への取組み

日進月歩で進化する自動運転技術について、安全の確保、制度面の環境整備、国際競争力強化等を図る。

	現在(実用化済み)	2020年まで	2025年以降
実用化が見込まれる自動走行技術	<b>【レベル1】</b> ・ 自動ブレーキ ・ 車間距離の維持 ・ 車線の維持  <b>【レベル2】</b> ・ 特定条件下での自動運転機能(レベル1の組み合わせ)	<b>【レベル3】</b> ・ システムによる高速道路等一定条件下での自動運転機能(システムの要求によりドライバーが介入)  (トヨタ自動車HPより)	<b>【レベル4】</b> ・ 限定地域における無人自動走行移動サービス   <b>【レベル5】</b> ・ 完全自動走行  (Rinspeed社HPより)
開発状況	一部市販車へ搭載	自動車メーカーが開発中	IT企業による構想段階
政府の役割	・ 実用化された技術の普及促進、正しい使用法の周知 ・ 自動ブレーキ・自動操舵に関する国際基準の策定(車線維持機能の基準は2017年10月施行)(議長国として議論を主導) ・ 国際基準策定に先立ち、自動ブレーキ等が一定性能を有することを国が確認し、結果公表する制度の創設	・ 技術水準に応じた安全確保措置の検討及び国際基準化 ・ 開発状況を踏まえた制度的取扱いの検討	完全自動走行車に対応した制度の整備 - 安全担保措置 - 事故時の責任関係

### 【自動走行技術の活用例】

#### トラックの隊列走行



#### 無人運転型バス



#### 遠隔操作型自動走行車



# 国際的な取り組み

自動車の国際基準づくりに積極的に参画し、日本が強みを有する分野で基準策定をリード。

日本の技術・基準の戦略的国際基準化

国際的な車両認証制度の実現

アジア諸国の国際基準調和活動への参加促進

基準認証のグローバル化に対応する体制の整備



# 環境対応車の開発・普及促進への取り組み、最適な利活用の推進

CO2削減のため、燃費基準の策定、経済的インセンティブ、最適な利活用の推進等の施策を展開。

## 燃費基準の策定

### ■ 野心的な基準の策定

- 将来の開発目標を示す。さらに、随時の見直しを実施。
- 2006年に世界で初めて重量車の燃費基準を策定。
- 世界最高水準となる2020年度乗用車燃費基準を新たに制定。

乗用車新車平均燃費の改善推移



## 税制優遇措置・導入補助

### ■ 税制優遇措置 (エコカー減税等)

- 電気自動車等次世代自動車に係る車体課税の減免
- ガソリン自動車等に対する燃費性能に応じた減免措置による技術革新の誘発

### ■ 環境対応車の導入補助

- 環境性能に優れた自動車を取得する場合などに、一定額を補助



## 新たな燃費表示の導入

自動車の燃費は走行環境により変化することから、自動車ユーザーの走行環境に応じた燃費性能を情報提供するため、平成29年7月以降、WLTCモードに基づき、**市街地、郊外、高速道路毎の燃費の表示を順次導入**。(平成30年10月以降の新型車に義務付け)

WLTCモード※2

燃料消費率※1(国土交通省審査値)

**20.4 km/L**  
 市街地モード※2 : 15.2 km/L  
 郊外モード※2 : 21.4 km/L  
 高速道路モード※2 : 23.2 km/L

※1 燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。  
 ※2 WLTCモード: 市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。  
 市街地モード: 信号や渋滞等の影響を受ける比較的低速な走行を想定。  
 郊外モード: 信号や渋滞等の影響をあまり受けない走行を想定。  
 高速道路モード: 高速道路等での走行を想定。

## 地域交通における環境対応車の利活用

### 観光地における電気バスの導入(伊勢神宮)



### 電気バスを活用したゼロエミッション交通システム構築



## 超小型モビリティの利活用

### ○ 日常利用



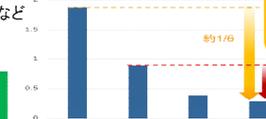
### ○ 観光促進



### ○ 業務利用・公務利用等



### エネルギー消費効率



電気がエネルギーかつ高効率

※1 WLTCモード燃費は、WLTCモードでの燃費を算出した平均燃費(市街地モード燃費×15%+郊外モード燃費×45%+高速道路モード燃費×40%)の値を示す。WLTCモード燃費は、WLTCモード燃費(市街地モード燃費×15%+郊外モード燃費×45%+高速道路モード燃費×40%)の値を示す。